

南洋叢書

全五卷

満鉄東亜経済調査局編／原田 勝正解題

一九三〇年代より、
日本にとって一層密接な関係に
あった諸地域の高度な資料集。

クレス出版

刊行のしよび

「南洋」ということは、現在ではいわば死語に近い存在となった。しかし、第二次大戦前の日本人にとって、「南洋」はある特別な意味をもっていた。文明のひろがりとその区分を示す「東洋」「西洋」ということばに対し、「南洋」は、まず、日本から見た場合同じ「東洋」のなかの異文化の地域として認識され、それが、第一次大戦後とくに一九三〇年代にはいると、日本の資源獲得のための目標地域として認識されるようになった。

しかし、その段階においても、日本側がもっていた「南洋」についての情報はきわめて乏しかった。この状態を見直し、本格的で、しかも精度の高い情報を提供しようとする作業が開始された。「南洋叢書」(全五巻、満鉄東亜経済調査局、昭和12(16年)は、民間の機関による調査の高度な成果といふべきであろう。

現在、東南アジア諸地域についての関心はその必要性にもかかわらず、全般的には必ずしも高いとはいえない状態にある。このようなどきに、一九三〇年代なかばの、タイを除いてまだ植民地的状況からみずからを解放していなかったこの地域の状況を知ることが、わたくしたちのこの地域に対する認識をつくりあげるうえで基礎的な作業として不可欠である。その意味で本叢書は、広範囲より情報をとり入れ、経済・商業・貿易・交通・国際関係等の研究者の方にご活用いただける資料であります。

●内容見本 第二巻 佛領印度支那篇 (93%縮小)

佛領印度支那篇

八二

第四政 治

一 概 説

異なる種族、然もそれぞれ固有の歴史と背景を有つ各種種族を分子とする佛領印度支那は、極めて複雑なる政治機構を以て構成されてゐる。佛領印度支那は一九一一年十月二十日大統領令により聯邦制度が施行されたことは既に述べたが、このため一言に佛領印度支那聯邦と云つても、交趾支那は植民地であり、その他の四邦即ち安南、東京、カムボヂヤ及ラオスは保護領となつてゐる。猶ほ之に一八九八年四月十日の佛清協定により獲得せし廣州灣租借地を加へねばならない。交趾支那は佛蘭西直轄の植民地であるから、當然佛蘭西の直接支配下にあるが、保護領は固有の組織と制度を有してゐる。斯くの如き複雑性は、行政機關と司法機關の機構を複雑化してゐる。以下之を別個に検討してゆかう。

二 行政機關

I 中央行政(總督府)

印度支那の最高行政機關は總督府である。總督官制は、一八八七年十月十七日大統領令を以て規定され、その後一九一一年十月三十日大統領令により修正され、現在に至つてゐる。總督府は總督を長とし、總督を補佐すべき總務長官及諮問機關、總督府所屬各部局及所屬官廳より成る。

(1) 總 督

總督(Gouverneur Général)は、内閣會議の決議の後大統領令を以て任命されるが、彼は佛蘭西政府の適法なる唯一の受權者であると同時に、本國政府に對する印度支那全般の利益代表者でもある。

前者の場合の總督は植民大臣の權限の代行者であるから、その權能は行政、立法、司法の各分野に亘り、印度支那全般の政治、社會、財政及經濟政策を自己の責任を以て遂行し得る權限を有し、且つ各邦行政長官を直屬部下とし、本國政府の委任事項に就いて諸法規の制定權を與へられてゐる。

●南洋叢書全五巻構成

- 第一巻 蘭領東印度
- 第二巻 佛領印度支那
- 第三巻 英領マレー
- 第四巻 シンガポールの法律
- 第五巻 比律賓

●第二巻 佛領印度支那篇 内容例

- 一、自然 位置及面積/地勢/氣候/動植物
 - 二、住民 種族/人口
 - 三、歴史 民族史略/佛蘭西の印度支那征略史/初期の植民政略
 - 四、政治 行政機關/立法機關/司法機關/国防
 - 五、財政 中央財政/地方財政
 - 六、産業 農業/牧畜業/林業/水産業/鉱業/工業
 - 七、労働 強制労働/契約労働/自由労働/一般問題/歐洲人労働者
 - 八、外国貿易及国内商業 外国貿易/国内商業
 - 九、貨幣及金融 貨幣制度/中央銀行及發券制度/金融事情
 - 十、社會 言語/教育/宗教/衛生/風習、芸術、娛樂
 - 十一、交通及通信 陸運/水運/空運/通信
 - 十二、民族問題
 - 十三、佛領印度支那の対支対日經濟關係 佛領印度支那と支那との經濟關係/佛領印度支那と日本との經濟關係
 - 十四、印度支那關係重要日誌
- 附録 安南王朝歴代世系
地名人名安南語—漢字対照表

●A5判/上製函入/ワコフ装
総本文約三、二〇〇頁

●解説・原田勝正(和光大学教授)
揃定価七二、一〇〇円(本体七〇、〇〇〇円)
平成三年三月二十五日刊

■好評既刊書

本邦経済統計

全8巻（大正7年～昭和16年版）日本銀行調査局編
日本銀行が編集・刊行する経済統計で、「大正八年三月調」の創刊号より昭和十七年十月に刊行された昭和十五・十六年版の戦前分二十三冊分を八分冊として復刻、日本銀行が独自に調査、集計した金融・企業財務、労働等オリジナルな諸統計を主とする第一次資料である。
B5判／総三、二八八頁／揃定価一四四、二〇〇円

明治徴発物件表集成

全30巻／別冊1 一橋大学経済研究所附属日本経済統計情報センター編・解題 陸軍省の調査による一連の統計書『共武政表』『徴発物件一覽表』等を集成復刻。全国同一方式で町村字別に、幅員、戸数、人口等や牛馬・船舶・荷車・人力車の存在量、米麦・食料・薪炭など物資の生産量を現地調査にもとづく信頼の高い資料である。
A5判・B5判・A4判／総約一八、四〇〇頁／揃定価四六三、五〇〇円

鉄道技術発達史

全7巻／別巻2 日本国有鉄道編 原田勝正解題
鉄道八十年の記念事業として日本国有鉄道技術研究所が昭和三年より編集刊行したもの。系統的に（施設、電気、車輛と機械、運転、船舶、研究）編集された数少ない通史的著作物、日本における輸送の動脈としての役割を果たしてきた国有鉄道の技術発達史。
B5判・B4判／総約五、四〇〇頁／揃定価二〇六、〇〇〇円

公営交通事業沿革史

戦前篇 全10巻
東京・大阪・横浜・名古屋・京都・神戸の各市電気局（現交通局）が刊行した主要な沿革史の集成。公営交通発達においてキイとなる公営化過程についての刊行物も併せて収録。戦時交通統制が実施されるまでの各市の市内交通の発達史を総括。
A5判・B5判／総五、七六二頁、折込多数／揃定価一九一、五八〇円／各都市分売可

日本国有 日本陸運史料

全5巻 財団法人運輸調査局編 原田勝正解題
『日本陸運十年史—第二次大戦と運輸経済—』と『日本陸運二十年史—第一次大戦末期より日華事変勃発に至るまでの運輸経済—』を復刻。大正九年より昭和二十四年までの陸軍事業、交通史を中心に社会経済史的観点から纏めた貴重書。
A5判／総二、五六二頁／揃定価六六、九五〇円

運輸五十年史

全3巻 運輸五十年史編纂局編
近代的な交通機関を代表する鉄道が開設五十年をむかえたことを記念し刊行されたもの。鉄道は国有、地方鉄道を詳細に、その他海運、道路及水運、新時代の交通機関飛行機、自動車、燃料及動力として石油、石炭、水力電気等広範な情報資料を集めた貴重書。
B5判／総一、七六八頁、写真多数／揃定価四六、三五〇円

近世社会経済叢書

全6巻 本庄栄治郎・土屋喬雄・中村直勝・黒正巖共編
大正十五年六月より昭和二年五月までに全十二巻で刊行されたものを合本して復刻。徳川時代並に明治初期における社会事情、経済状態、経済思想等に関する文献を輯録。日本各地の産業、風土、風俗、生活に係わる貴重史料をまとめ、当時の様子を伝える。
A5判／総三、九六六頁／揃定価六七、九八〇円

日本海防史料叢書

全5巻 住田正一編
日本は四方を海に囲まれている関係上、対外的には必然と海防の事を考える必要があった。しかし、徳川幕府の鎖国主義により、海外交通は杜絶され、海事資料の湮滅に力が注がれた。編者は江戸時代を中心に数少ない貴重資料を集成した。
A5判／総二、九九〇頁／揃定価五一、五〇〇円

